

名古屋市初記録種のニホンケシガイ

横井 敦史

愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13

First record of a land mollusk, *Carychium nipponense* Pilsbry and Y. Hirase, 1904, from Nagoya, Aichi Prefecture

Atsushi YOKOI

Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0867, Japan.

Correspondence:

Atsushi YOKOI E-mail: 1810124@s.mizuho-c.ac.jp

要旨

名古屋市西区庄内緑地公園（西区山田町大字上小田井）で陸産貝類調査を実施したところ、ニホンケシガイ、ナタネガイ属の一種、オカチョウジガイ、チャコウラナメクジの4種を発見した。このうちニホンケシガイは名古屋市初記録であった。

はじめに

名古屋市西区庄内緑地公園（西区山田町大字上小田井）では、平成24年10月に陸産貝類の一斉調査が実施されており、6種（トクサオカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、ヒメコハクガイ、コハクガイ、チャコウラナメクジ）が報告されている（川瀬, 2013）。しかし、その後の陸産貝類を対象とした庄内緑地公園内での調査報告はない。そこで、2021年6～8月に庄内緑地公園内で陸産貝類の調査を行った。今回の調査により、名古屋市初記録となるニホンケシガイを発見したので、共産種とともに報告する。

調査方法

2021年6月30日、7月14日、8月20日に庄内緑地公園内で陸産貝類調査を実施した。大型種については、目視観察を中心に倒木や人工物の裏面などを調べた。微小種については、リター層を採取し5mmメッシュの篩でソーティングした。また、降雨後には湿った落葉の表裏面を1枚ずつ確認し、這っている陸貝を目視で探した。

調査地の環境は次のとおりである。公園内の植生は常緑樹が中心であり（図1）、特にサイクリングコース沿いの西部から北西部にかけては常緑樹の雑木林が広がっている。園内にはボート池とガマ池があり、これらの溜池の水は、増水時には公園の南側を流れる庄内川に流出する。このような溜池があるものの、園内にリター層や腐葉土層が発達している場所は少なく、特に園内中央部



図1. ニホンケシガイが生息する常緑樹の林床



図2. ニホンケシガイ（標本）スケールバー：1 mm



図3. ニホンケシガイ（生体）

では腐葉土や落葉が溜まっている場所はほとんどなく、乾燥化が著しかった。園内全域を調査したが、陸産貝類相は乏しく、今回報告する種は全て園内最北部から発見されたものである。

調査結果

園内最北部から、ニホンケシガイ、ナタネガイ属の一種、オカチョウジガイ、チャコウラナメクジの4種を確認した。

・ニホンケシガイ（図2, 3）

Carychium nipponense Pilsbry and Y. Hirase, 1904

東（1995）の記載「殻は微小、透明な淡い黄白色で平滑、光沢がある。縫合はやや深く、殻口は斜位で、細長く小さい。内唇の中ほどに尖る板（歯）状があり、外唇内方にやや大きい節がある。」に形態的特徴が一致することから本種に同定した。北海道、本州、四国に分布するが（東，1995），名古屋市からの記録は本調査が初めてである。

・ナタネガイ属の一種

Punctum sp.

川瀬（2013）において庄内緑地公園から本種の記録は

ない。ナタネガイ *Punctum amblygonum* (Reinhardt, 1877) とは異なる国外外来種の可能性も考えられるため（上島ほか，2000；早瀬・木村，2011），*Punctum* sp. とした。名古屋港周辺（早瀬・木村，2011）や愛知県豊田市扶桑町（川瀬ほか，2011）から報告された個体と同種と考える。

・オカチョウジガイ

Allopeas clavulinum kyotoense (Pilsbry and Y. Hirase, 1904)

北海道から九州に分布し、腐葉土中に多数生息することがあり、従来の分布地ではない場所に移動させられ、移動先で定着することがある。今後、分布を拡大する可能性が高いと考えられている（川瀬，2013）。

・チャコウラナメクジ

Ambigolimax valentianus (A. Férussac, 1821)

ヨーロッパ原産の外来種とされており、日本への侵入は、はっきりしないがアメリカ軍物資由来で、1950年代後半の本州で生じたと考えられている（黒住，2002）。近年、東海地域の平地でみられるナメクジ類のほとんどは本種である。本調査では落葉下で発見した。

考察

名古屋市西区庄内緑地公園に生息する陸産貝類は、本調査に川瀬（2013）の結果を加えて、ニホンケシガイ、ナタネガイ属の一種、トクサオカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、ヒメコハクガイ、コハクガイ、チャコウラナメクジの8種となった。このうち、トクサオカチョウジガイ、ヒメコハクガイ、コハクガイ、チャコウラナメクジは外来種であり、ホソオカチョウジガイとオカチョウジガイは在来種であるが、市街地など自然度の低いところに多く見られる外来種的な要素の強い種である。また、調査地は遊水池のため大雨などで冠水する場所であり、比較的個体数の多かったナタネガイ属の一種も外来種である可能性が高いと考える。

名古屋市初記録種のニホンケシガイは、個体数が極めて少なかった。本種は1,000 mを超える高標高の山地から河畔林など河岸の平地環境までの幅広い環境に生息することが知られている。微小なため軽量で平滑な殻表は表面張力により水面に浮き易く、増水期を利用して多様な環境に分布拡散している可能性があることが指摘されている（早瀬ほか，2012）。本調査地についても庄内川が増水した際に冠水し、上流域から流れ着いた個体が定着した可能性がある。また、植木や付随する土壤に付着し、人為的に持ち運ばれて定着した可能性も考えられる。いずれにしても、自然度が極めて低く、市街地的要素の強い環境から、外来種や外来種の可能性が高い多くの種と共に発見された点が興味深い。

ニホンケシガイは微小陸貝の中でも最も小型である。例えば、野々部ほか（1984）では、愛知県内の記録は豊橋市嵩山のみが記載されているに過ぎない。さらに、天野（1966）においては愛知県からの記録がない。しかし、なごや生きものの一斉調査・2012陸貝編（川瀬，2013）で

は、微小種まで丁寧に調査されているため、名古屋市各地の調査において、本種の生息が見落とされていたとは考えにくい。そのため、愛知県下におけるニホンケシガイの生息地は極めて局所的と考えられる。

引用文献

- 天野景従. 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高等学校研究紀要, 4 : 69-82+2 pls.
- 東 正雄. 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版. 保育社, 大阪. 343pp.
- 早瀬善正・木村昭一. 2011. 名古屋港周辺の陸産貝類相, 特に新たな外来移入種メリケンスナガイ（新称）について. ちりばたん, 41(2) : 48-59.
- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・矢橋 真・守谷茂樹・西浩孝・川瀬基弘・岩田明久. 2012. 御池岳の陸産貝類調査報告. かきつばた, 37 : 1-11.
- 川瀬基弘. 2013. なごやで探そう！カタツムリ, なごや生きものの一斉調査・2012陸貝編 報告書. なごや生物多様性保全活動協議会, 名古屋. 29pp.
- 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊. 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類. 豊橋市自然史博物館研究報告, 21 : 31-43.
- 黒住耐二. 2002. チャコウラナメクジ～ナメクジ類の置き替わり. 日本生態学会（編）. 外来種ハンドブック, p.164. 地人書館, 東京.
- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫. 1984. 陸産貝類. 佐藤正孝・安藤 尚（編）. 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
- 上島 励・長谷川和範・齋藤 寛. 2000. 皇居の陸産および淡水産貝類. 国立科学博物館専報, 35 : 197-210.